

## 岡崎久彦先生追悼

茲に不肖の弟子王蒼海、先師粵王先生岡崎久彦大使閣下の御靈前に謹み伏して申さく、  
哀しき哉 大使閣下、畢生外交に盡瘁し、天下太平の爲に獻身して、今此處に漸く休み給へり。國家長久の策の建白成るを喜ひ給ひしはこの夏なるも、月冷め秋風無情に起こり、大賢天界仙境に召さる。弟子不肖無力にして、ただ白雲の西天に流るるを送り、再び東に慈雨の來たらんを空しく待ち望むのみ。

大使閣下は、關東州に生を享け、東京に育ち給ふも、紀州藩士岡崎氏の後代にして、その深慮遠謀は、叔祖の陸奥宗光伯爵に似て、氣骨稜々たるは祖君の岡崎晚香先生を襲ふ。東京府立高等學校、東京帝國大學に進み、夙に俊秀の譽高く、弱冠にして外交官試験に及第したまふ。爾後、外交場裡に勲功を重ね、敗戦後多難なりし我が國の再興の爲に永年精勤し、以て終戦詔書の「世界ノ進運ニ後レサラムコトヲ期スヘシ」との聖旨を善く體したまへり。

嗚呼、大使閣下の世界の情勢を見ること、掌を指すが如く、戰略の正否を論ずること、快刀亂麻を斷つが如し。その識見は、盟邦米國にて得給へる知音の贊嘆するところとなりけり。

大使閣下は、昭和の末年、宮中にて 先帝陛下より親しく印綬を賜ること再びにして、又出ては友邦沙地、泰國の朝に敦睦を深め、誠に君命を辱めず、實に完璧歸趙の名聲あり。

致仕の後、岡崎研究所を起こして、廣く羣賢を集め、晩輩に教へて倦み給はず。また史書を編纂し、時局を解説して國民を啓蒙したまへり。その著「陸奥宗光」は評傳の白眉にして、大使閣下の文名を高からしむ。

大使閣下は、長身壯健、音吐朗々として東京山の手の雅言を話し給ふ。威ありて猛からず、洒脱にして風雅を愛し、常に詩書に親しみたまふ。その手跡は、曹碑を觀摸して勢意あり、岳飛を臨書して雄勁なり。不肖弟子、虎門の書院に至り教へを請ふに、手澤の典籍、棟に充ち、清玩の書軸、廊に並び、文墨を高談して盡くることなし。大使閣下該博の御教養はその根本に幼年よりの詩文の暗誦あるに鑑み、わが國民精神の作興は正統文語文の普及を以つてせんと、その徳を慕ふ同仁つどへて、今日の文語の苑の隆盛を導きたまへり。

嗚呼、大使閣下の絶唱は、その文語の苑に収録の「集團的自衛權偶感」なり。これ豈に偶感なるらんや。この詩意嘗て會稽の恥を雪ぐ臥薪嘗膽を唱道したまへる陸奥伯の深念はじめて姪孫に相傳するを見る。

今、大使閣下の遺影の溫容を仰ぐに、徳望仁慈を尊く思ひ出され、涕汨流るるを禁じ得ず。唯、大使閣下の遺囑は、ありし日座右の出師表黙して示すがごとく、國家に忠を盡くせの一事のみなれば、不肖弟子これより自らの任務に當たり、哀傷を忍び、永く身を致して師徳に報い奉らんと誓ひ、以つて追悼の誠を捧げんとす。

平成二十六年十一月十二日

(注)

白雲 神仙賢人の世を去る様を象徵す。「白雲愁色滿蒼梧」(李白『哭晁卿衡』)。

「昔人已乘白雲去」(崔顥『黃鶴樓』)。

慈雨 君子の教化の普く及ぶ様。「霈然慈雨(中略)導彼蒼生」(梁簡文帝)。

關東州 遼東半島一帯の地

沙地 サウジアラビアの漢名

完璧歸趙 藺相如の故事。「史記」『廉頗藺相如列傳第二十一』

曹碑 隸書の手本たる曹全碑を指す

岳飛 南宋の忠勇無雙の武將

謹次故岡崎久彦大使閣下之偶感韻以獻弔詩（賓韻七言古詩）

嗚呼閣下歸西天 嗚呼、閣下は西天に歸りたまふ。

日遠音容須誦記 音容日に遠けれど誦記せよ。

戰略縱橫資太平 戰略、縱橫にして太平に資し、

經綸曩鑠興仁義 經綸、曩鑠として仁義を興すと。

耀才編史家先功 才を耀かして史を編む家先の功

振德盟邦世代誼 德を振ひて盟邦に世代の誼あり。

瀟洒羣英文墨交 瀟洒にして、羣英と文墨に交はりあり、

寬容寒士許師事 寬容にして、寒士に師事を許したまふ。

先皇欽敕使臣差 先皇の欽敕 使臣を差はしめ

聖上嘉恩星綬賜 聖上の嘉恩 星綬を賜ふ

總理招賢建白成 總理 賢を招きて建白成る

利民保國自彊議 民を利し國を保つの自彊の議。

星移月冷鎖書樓 星移り月冷めて、書樓を鎖すに、

座右岳飛模本遺 座右遺るあり岳飛の模本

臨別誓言雖不肖 別れに臨み、不肖なれども誓ひて言はむ

致身以報畢生志 身を致して、以て報いむは 畢生の志と。

（注）

家先 カセン 自家の先祖

寒士 カンシ 杜甫の「寒士の屋」を踏まへたものにて、詩意あり。

（杜甫曰く、金があつたら、天下の困窮した文人が集ふ家をつくるのに！）

世代 セイダイ 世々 代々

差 つかはす 欽差大臣は特命全權大使の漢名

自彊 ジキヤウ 躬ら努む